

平成17年度 損害保険会社決算概況

1. 平成17年度決算の特徴点

平成17年度決算の特徴として、次の3点を挙げることができます。

第1点は、正味収入保険料が景気の回復を反映して1.0%の増収に転じ、(前年度は0.3%)回復基調へと向かってきたということです。

第2点は、自然災害による保険金支払の要素が減少し、収益が改善したことです。前年度は、相次ぐ自然災害に伴い保険金の支払が急増しましたが、平成17年度は、大きな自然災害も少なかったことから、保険引受利益が大幅に改善し、前年度の640億円の赤字から、一転して、159億円黒字となりました。その結果、経常利益で18.2%の増益、当期純利益で18.4%の増益となりました。

第3点は、各社の合理化・効率化、社費節減努力により事業費率の低下が進み、平成17年度も0.5ポイントの改善がみられたことです。事業費率の低下は、平成11年度から7年連続となっています。

2. 決算概況

経常収益は、保険引受収益が8兆9,168億円、資産運用収益が6,408億円、その他経常収益が447億円となった結果、前年度比2,228億円(2.3%)減の9兆6,023億円となりました。

一方、経常費用は、前年度比2,972億円(3.2%)減の9兆1,188億円となりました。

この結果、経常利益は、前年度の4,091億円から745億円(18.2%)増益の4,836億円となり、税引後当期純利益も、前年度の2,586億円から477億円(18.4%)増益の3,063億円となりました。

3. 保険引受の概況

(1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、主力の自動車保険で保険料が平成14年度からの3年連続の減収に下げ止まりの傾向を見せ、加えて火災保険・傷害保険等殆どの種目で増収となったことから、前年度比735億円(1.0%)増の7兆4,854億円となりました。

* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

(2) 正味支払保険金

正味支払保険金は、前年度のような大規模な自然災害もなかったことから、前年度比1,808億円(4.1%)減の4兆2,109億円となりました。

なお、平成17年度に入っても、前年度の自然災害による支払が進行したことが影響し、この減少割合はそれほど大きくなっていません。

* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

また、損害率は、前年度の 63.6% から 60.6% へ 3.0 ポイントダウンしました。

(3) 保険引受に係る「営業費及び一般管理費」

保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は、社費の節減に努めた結果、前年度に比べ 292 億円 (2.5%) 減の 1 兆 1,426 億円となり、事業費率は前年度の 32.6% から 32.1% へ 0.5 ポイント低下し、平成 11 年度から 7 年連続の減少となりました。

(4) 保険引受利益

保険引受利益は、前年度の 640 億円の損失から、平成 17 年度は一転して 159 億円の利益となりました。

* 保険引受利益 = 保険引受収益 - 保険引受費用 - 保険引受に係る営業費及び一般管理費 ± その他収支

4. 資産並びに資産運用の概況

平成 17 年度末における総資産は 36 兆 6,097 億円で、株価水準が上昇したこともあり、前年度末の 32 兆 5,361 億円から 12.5% の増となりました。

また、利息及び配当金収入は、企業業績の回復・改善により配当金収入が増加したことなどから、前年度比 13.6% 増の 5,607 億円となり、収益改善に寄与しました。

5. ソルベンシ - ・マ - ジン比率

ソルベンシ - ・マ - ジン比率については、全社とも 200% を大幅に超えており、健全性については問題ない状況にあります。

協会加盟会社 (22社)

あいおい損保、朝日火災、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぽ24、大同火災、東京海上日動、トア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

損害保険会社の平成17年度決算概況

